

ドローンとリアルタイム情報共有システム「Hec-Eye」を活用した有害鳥獣の生息状況調査 取組主体名：長野県小谷村、株式会社リアルグローブ

実証概要

- 長野県小谷村では、鳥獣被害対策のため、夜間に赤外線カメラを搭載したドローンを飛行させ、リアルタイム情報共有システム「Hec-Eye」を活用して有害鳥獣（シカ・イノシシ等）の生息状況調査を実施。
- ドローンの空撮映像を、「Hec-Eye」を活用したリアルタイムの情報共有により、操縦者と補助者に加え、複数の映像確認者による調査が可能となり、効率的に有害鳥獣を発見することができた。

取組結果

- 「Hec-Eye」において、ドローンのフライト位置を保存して、飛行データにより有害鳥獣の生息場所を予測し、その情報をスムーズに共有することができることから、地域と連携した捕獲に繋げる事ができた。
- 「Hec-Eye」の地図上に、有害鳥獣の発見情報や足跡、捕獲位置を登録することで、次回の調査やわなの設置場所の選定にも活かすことが出来た。

(株)リアルグローブの情報共有システム「Hec-Eye」の概要

- ドローン映像をリアルタイムでクラウド上のシステムで共有することで、現場の様子を遠隔地で確認することが可能。
- 位置情報などの補足情報を管理できるため、情報整理と分析が容易。
- 地図ベースのシステムで使用し易い。

